

■著者紹介

新美 治一 (NIIMI Jiichi)

1961年東京教育大学を中退し、モスクワ諸民族友好大学に留学。1966年、同校法学部（予科1年・本科4年）を修了し、法学マギストルと認定される。

名古屋大学法学部助手、福島大学行政社会学部教授を経て、2000年4月から、名古屋経済大学法学部・名古屋経済大学大学院法学研究科教授（憲法）として勤務し、現在に至る。

研究課題は2つある。1つは、「日本国憲法の価値」とは何か？ 2つめは、「ソヴィエト社会主義とその国家の歴史的な意味」とは何か？ である。前者については、『日本国憲法の価値』（八朔社、2006年）において、自らの見解を世に問うているが、後者については、幾つかの論文（名古屋大学法学部紀要『法政論集』、福島大学紀要『行政社会論集』、名古屋経済大学法学部紀要『名経法学』等に所収）を発表しているものの、まとめたものがなかった。『全ロシア憲法制定会議論』は、初めての著書である。